第 11 講　【近世編】近世のはじまり

PART3 宗教改革とその拡大

Chapter 1　ルターの宗教改革

目標
ルターが「九十五カ条の論題」を発した理由を学ぼう。
ルターの宗教改革に対するカール 5 世の最終的な判断を知ろう。

1　宗教改革のはじまり

①宗教改革の背景

16 世紀初め，教皇〔　　　　　　　　　　〕が**贖宥状**〔　　　　　　〕の販売を許可

A　カトリック教会の総本山**サン＝ピエトロ大聖堂**の改築資金を集めることが目的

B　教皇が発行するこの証明書を購入すれば，罪は許されるとされた

C　ドイツで大々的に販売されたので，ドイツは「ローマの牝牛」と呼ばれた

②ルターの宗教改革

A　1517 年，ドイツの神学者〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕が〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕を発表。「人は信仰によってのみ義とされる」と主張し，異議を唱える

B　全てのキリスト教徒は司祭であるとする万人司祭主義を説き，教会の権威を否定
→教皇がルターを破門

③皇帝との対立

1521 年，**ヴォルムス帝国議会**で神聖ローマ皇帝
〔　　　　　　　　　　〕がルターに自説の撤回を要求。これを拒否して国外追放になる

④聖書のドイツ語訳

ザクセン選帝侯フリードリヒの保護を受け，『**新約聖書**』の**ドイツ語訳**を完成

2　ドイツの宗教改革の展開

1519 年　〔　　　　　　　　　　〕が，ヴァロワ朝のフランス王**フランソワ１世**を抑えて神聖ローマ皇帝になる

※イタリアの支配権を巡り，フランス，オスマン帝国と争う。

1524 年　〔　　　　　　　　　　　　　〕がおこる

※ルターの教えに触発された農民による一揆に，ルターは当初，同情的だった。

※宗教改革者〔　　　　　　　　　　　　〕の指導のもと，農民が農奴制・領主制の廃止など社会変革を要求すると，一揆の鎮圧を主張。

1526 年　**カール５世**が，オスマン帝国の圧力に抵抗するため，**ルター派**の信仰を容認

1529 年　カール５世がルター派の信仰を再び禁止

※ルター派の諸侯が抗議。〔　　　　　　　　　　　　　　〕と呼ばれる。

※のちに，カルヴァン派，イギリス国教会派など諸宗派の総称になる。

1530 年　ルター派の諸侯と都市が〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕を結成

1546 年　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕がおこる（～ 47 年）

1555 年　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕でルター派を公認

※諸侯にだけ宗派を選ぶ権利が認められる。（個人の信仰の自由ではない。）

※領邦諸侯が領域内の教会を支配する**領邦教会制**が成立。

→領邦君主の支配権が強化される

宗教改革に関連する動き

まとめ　カトリック教会が贖宥状（免罪符）の販売をドイツで進めたため。
カール５世は，アウクスブルクの宗教和議で諸侯のルター派信仰を容認した。

Chapter 2　宗教改革のヨーロッパへの波及

目標

カルヴァン派の特徴と，その広がりを理解しよう。

新教派の拡大に対して，カトリック勢力がどのように対抗したのかを確認しよう。

1　カルヴァン派の広がり

①〔　　　　　　　　　　　　〕の宗教改革

スイスの**チューリヒ**で宗教改革に乗り出すも，カトリック派と戦って戦死。

②〔　　　　　　　　　　　〕の宗教改革

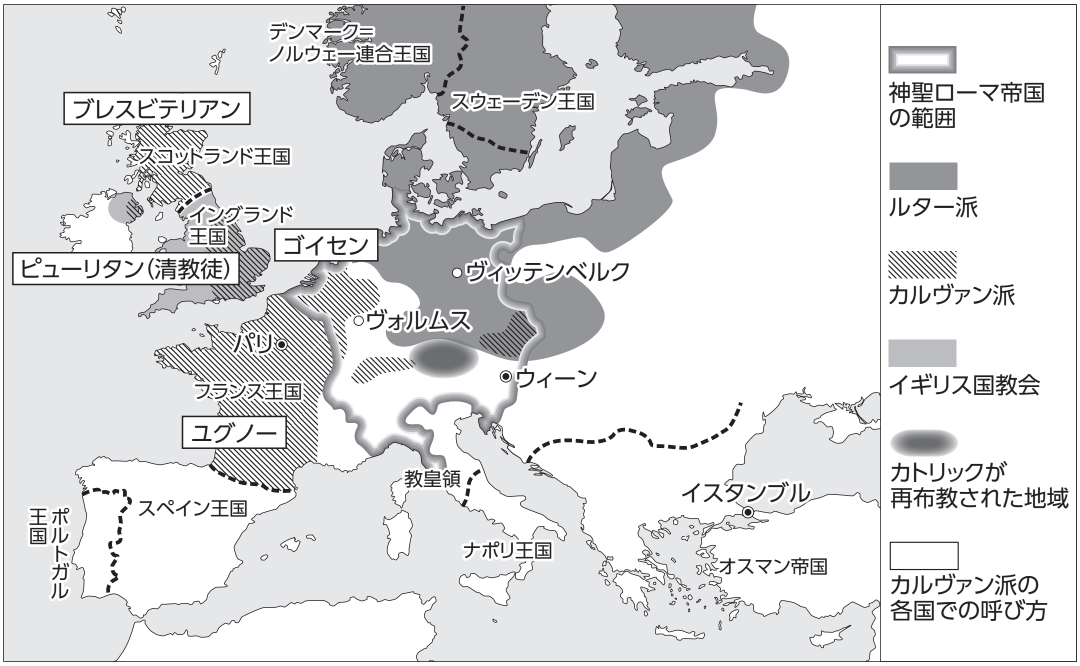
A　スイスの**ジュネーヴ**を拠点に宗教改革を進める

B　信徒から選ばれた**長老**と牧師が教会を管理・運営する〔　　　　　　　　　〕を導入

C　人が救済されるかどうかは，神の意志によってあらかじめ定められているという〔　　　　　　〕を主張→**蓄財**を肯定

D　商工業者や知識人に受け入れられ，西ヨーロッパ各地に広がる

※カルヴァン派は，イングランドでは〔　　　　　　　　　　　　〕(清教徒)，フランスでは〔　　　　　　　　〕，スコットランドでは**プレスビテリアン**（長老派），オランダでは**ゴイセン**と呼ばれた。



宗教改革の広がり

2 イギリス国教会の成立

1534年　教皇に離婚を反対されたテューダー朝の国王〔　　　　　　　　　　〕が，

〔　　　　　　〕(国王至上法)を発布。国王を首長とする

〔　　　　　　　　　　　　〕を設立

※教会組織や宗教儀式などにカトリック的要素を残す。

※国内の修道院を解散させ，土地や財産を没収。

1553年　ヘンリ8世の娘**メアリ1世**が即位。**カトリックの復活**を図る

→プロテスタントを弾圧し,「血まみれのメアリ」と呼ばれる

1559年　女王〔　　　　　　　　　　〕

が〔　　　　　　〕を定め，**イギリス国教会**を確立

※イギリス国教会の祈祷や礼拝の統一を図る。

ヘンリ8世と妃たち

3 対抗宗教改革

宗教改革の動きに対し，カトリック教会でも〔　　　　　　　　　　　〕がはじまる。

1534年　**イグナティウス＝ロヨラ**や**ザビエル**らが，〔　　　　　　　　　〕を結成

※布教と教育を重視。アメリカ大陸やアジア諸地域でも活動。

※ザビエルは1549年に日本へ初めてキリスト教を伝えた。

1545年　イタリアで〔　　　　　　　　　　　　　　〕が開かれる

※新旧両教会の調停という目的は実現せず。

※教皇の至上権，カトリック教義の再確認，**禁書目録**の作成，**宗教裁判**の強化。

まとめ

カルヴァン派は予定説を説き，蓄財を肯定して商工業者に受け入れられ，西欧に普及した。
イエズス会を承認して再布教を進め，トリエント公会議で教皇の至上権を確認して権威復活を図った。

第 11 講　PART 3　確認問題

1 ドイツの宗教改革者マルティン＝ルターの説明として**正しくないもの**はどれか。

① ローマ教皇による贖宥状の販売に異議を唱えた。
② 『新約聖書』をドイツ語に翻訳し，出版した。
③ 全てのキリスト教徒を司祭とする万人司祭主義を説いた。
④ ヴォルムス帝国議会でローマ教皇に破門された。

2 ルターの宗教改革のきっかけとなった贖宥状の販売を許可した，ローマ教皇はだれか。

① ウルバヌス２世　② レオ 10 世
③ グレゴリウス７世　④ インノケンティウス３世

3 ドイツのルター派の諸侯と諸都市によって結成された同盟を何というか。

① シュマルカルデン同盟　② ハンザ同盟
③ ライン同盟　④ ロンバルディア同盟

4 ルター派の諸侯・諸都市と信仰の自由を巡って争った，神聖ローマ帝国の皇帝はだれか。

① ヨーゼフ２世　② ハインリヒ４世
③ カール５世　④ フリードリヒ２世

5 カルヴァンが宗教改革に乗り出した都市は、ヨーロッパのどこか。

① チューリヒ　② アウクスブルク
③ パリ　④ ジュネーヴ

6 カルヴァンの教えを支持する宗派は，フランスでは何と呼ばれたか。

① ピューリタン ② ゴイセン
③ ユグノー ④ プレスビテリアン

7 1559年に統一法を制定して，イギリス国教会を確立させた人物はだれか。

① ヘンリ８世 ② エリザベス１世
③ メアリ１世 ④ エドワード３世

8 教皇の至上権や教義の再確認などを行った，1545年の宗教会議を何というか。

① コンスタンツ公会議 ② エフェソス公会議
③ トリエント公会議 ④ クレルモン宗教会議

第 11 講　PART 3　確認問題 解答

1 解答：④　ルターは，ヴォルムス帝国議会で**神聖ローマ皇帝カール５世**から自説の撤回を要求されて拒否し，国外追放になった。

2 解答：②　メディチ家出身の教皇**レオ 10 世**は，サン＝ピエトロ大聖堂の改築資金を集めるため，贖宥状の販売を許可した。

3 解答：①　ルター派の諸侯と諸都市は，中部ドイツの都市**シュマルカルデン**で同盟を結成した。

4 解答：③　神聖ローマ皇帝**カール５世**は初めルター派の信仰を容認したが，のちにこれを撤回し，ルター派の諸侯･諸都市とシュマルカルデン戦争を戦った。

5 解答：④　フランス人のカルヴァンは迫害を受けてスイスに逃れ，**ジュネーヴ**を拠点に宗教改革に乗り出した。スイスのチューリヒで宗教改革を進めたのは，ツヴィングリである。

6 解答：③　カルヴァン派はフランスでは**ユグノー**と呼ばれた。ピューリタンはイングランド，ゴイセンはオランダ，プレスビテリアンはスコットランドにおけるカルヴァン派の呼称である。

7 解答：②　イギリス国教会は国王を首長とする教会で，**エリザベス１世**による統一法で確立された。

8 解答：③　イタリアのトリエントで開かれた**トリエント公会議**で，教皇の至上権などが確認された。